

2022.3 Letter 通信 vol.10 に掲載済み

2022.6 協働のまちづくり推進に資する、すべての市民が集いなくなる公共施設の在り方について



春日まちづくり支援センターぶどうの庭の耐震工事は急ぐ必要があるとの考えのもと、今後の具体的改修計画を確認。本年度中に議会に予算を提案し、耐震化と併せ、より活用しやすい施設に向け改修を進めたいとの回答。男女共同参画センターじょなさんについては、バリアフリーの課題、駐車場が少ないなどの性能評価、利用状況、運営費などの評価が低く、他施設への複合を考えているとの方向性を確認。ふれあい文化センターなどが立地する市中央部に集約できないか検討しているとの回答を得る。

2022.9 健康スポーツ拡充に向けた環境整備を含む今後について



超高齢化社会、健康寿命延伸は喫緊の課題であり、コロナ禍市民の健康への関心は高まっているため健康スポーツ拡充の環境整備等について質問。第2次春日市都市計画マスタープランにおいて、自転車活用は渋滞解消にも効果のある気軽な健康スポーツとして位置づけられ、国も推進中である。市民の日常的なスポーツはウォーキングやジョギングなどが多いことから、道路整備の必要性の見解を尋ねたところ、健康という視点での整備は考えていないとの回答。行政の柔軟な思考と横断的な取組を望むところである。白水大池公園は誰もが使いやすいユニバーサルデザインの視点で整備を確認。今後の官民連携の取組については、具体的には決定していないとの回答を得る。(公園PFI導入予定)

2022.12 不登校児童生徒の学びの場の確保について



現在教育支援センターに通う不登校児童生徒(4人)は大変少ない状況で、通いやすい環境整備は重要との考えのもと送迎サービスについての見解を尋ねたが、その必要性は低いとの回答。実際に送迎ができないため選択肢に入らなかったという声を聴いているため、送迎サービスの潜在的ニーズは高いという認識のもと、通級制が選択ができるよう今後も市に発信していく予定。フリースクールに通う児童生徒への送迎の支援や経済的支援については、引き続き支援の在り方について調査研究に努める、フリースクールに対する財政的支援については、現時点でその考えは持ち合わせていないとの回答。今後も国や県(県には要望済み)へも要望を働きかけ、市にも調査研究の結果を確認しながら支援を要望していく。

西鉄春日原駅周辺整備事業に対するより多くの市民の声の反映について

駅周辺整備事業においては高架下スペースや駅周辺に、市民の声として貸室や学習スペース、イベントができるスペースなどの設置の要望があり、それら設置予定について質問。管理面や費用対効果の面から設置の予定はないとの回答を得る。駅舎や駅周辺の整備が進む中で駅周辺の魅力が高まり、民間企業の参入の促進、市民活動の活発化により、通過する場所から目的地となり可能性が広がることをイメージしていると確認。西鉄春日原駅周辺整備まちづくり会議の拡大開催も必要に応じて実施し、駅前広場等においてマルシェ等イベントを行う主体者である市民の声、意見、要望等は、その会議において聞くということを確認。

にしかわ文代の議会活動におけるトピック

*にしかわ文代が反対した理由を詳細に掲載します

2022年9月定例会上程議案「第56号議案放課後児童クラブの指定管理者の指定について」には反対

(議案の内容) 現指定管理者を引き続き5年間再指定して放課後児童クラブの管理運営をさせるというもの。

反対の理由

学童保育に対する春日市の「考え方」「指定管理者制度導入の仕方」

「市民や利用者に信頼される情報公開の在り方」において納得感がなく改善を求めたい。

➡『何の課題もないかのように5年間の再指定には反対である。』

管理運営の課題・市民の不満

現指定管理者の管理運営が始まった令和2年度～再指定を決定した令和3年度の2年間、支援員の配置や保育の在り方に課題があると、保護者や支援員の皆さんから改善を求める請願書・陳情書が議会に提出された。管理運営に信頼が得られていない部分があり軽視できない。市独自の学童保育の良さが無くなったとの声もある。

費用対効果・業務実績が市民・利用者にとって透明性に欠ける

市民や利用者に対する透明性の確保が十分ではない信頼性を欠く事実として、業務実績を判断するための収支決算書に黒塗りが多く、市民の代表として業務実績を判断できないまま、賛成の意を表明できないと判断。選考も含め業務実績評価をするのが市職員のみで、第三者の評価(多くの自治体ですでに導入)が入っていないことも、市民にとっては透明性に欠けるとの課題を以前の一般質問で指摘し改善を求めたが、現在も改善はされていない。